

# 病虫害発生予報 第1号(4月予報)

和歌山県農作物病虫害防除所  
TEL 0736(64)2300

## < 予報の概要 >

作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水稲	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	並 並	野菜全般	灰色かび病 ミカンキイロアザミウマ	やや多 並
タマネギ	灰色かび病 白色疫病 べと病	並 並 並	カンキツ	かいよう病 そうか病 ミカンハダニ	並 やや少 並
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病	やや多 並	カキ	うどんこ病	並
キャベツ	コナガ	並	ウメ	かいよう病	並
			果樹全般	カメムシ類	並～ やや多

## 気象予報

1か月予報(予報期間 3月20日～4月19日 大阪管区气象台)

### < 特に注意を要する事項 >

1週目終りから2週目にかけて、近畿地方では低温になるおそれがあります。

### < 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は、数日の周期でかわるでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並または高い確率ともに40%、2週目は低い確率50%です。

### < 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%) >

【気温】近畿地方	30	30	40
【降水量】近畿地方	30	40	30
【日照時間】近畿地方	30	40	30

凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

	月平均気温(平年値) (℃)	月降水量(平年値) (mm)
4月	和歌山 14.8	和歌山 114
	潮岬 15.5	潮岬 234

# I. 水 稲

## 1. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月中下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市0頭（平成2.8頭、成虫率31%）、紀の川市21頭、成虫率33%（平成4.6頭、成虫率25%）、かつらぎ町0.7頭、成虫率0%（平成1.4頭、成虫率37%）と平成並であった。

## 2. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月中下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市3.7頭、成虫率0%（平成35.4頭、成虫率37%）、紀の川市0頭（平成4.0頭、成虫率17%）、かつらぎ町4.0頭、成虫率25%（平成5.9頭、成虫率29%）と平成並であった。

# II. 野 菜

## <タマネギ>

### 1. 灰色かび病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月5半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は0%（平成0%）と平成並であった。
- ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 下位葉に病斑を認めたら早めに薬剤防除を行う（「防除指針」参照）。

### 2. 白色疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月5半旬現在、紀北地域での発生ほ場率は15.1%（平成16.3%）と平成並であった。
- ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 同一のほ場内でも発病に片寄りがみられることがあるので、発生が集中的にみられるところは特にていねいに薬剤散布を行う。

### 3. ベと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月5半旬現在、紀北地域での越年罹病株の発生ほ場率は9.4%（平成2.4%）とやや高かった。
- ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 前年度の発生ほ場では4月上旬から薬剤防除を行う。また現在未発生ほ場でも、周辺からの二次伝染が予想されるところでは予防散布を行う。

## ＜エンドウ＞

### 1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 3月3半旬現在、紀中地域の露地栽培での発生ほ場率は33.3%（平成22.2%）とやや高かった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 雨が多いと多発するので薬剤防除は早めに行う（「防除指針」参照）。

② 過湿ほ場では発生が多いので、排水対策に努める。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 3月3半旬現在、紀中地域の露地栽培での発生ほ場率は5.6%（平成2.4%）と平成並であった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生初期から薬剤防除を行う（「防除指針」参照）。

## ＜キャベツ＞

### 1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域では3月4半旬現在、発生を認めていない（平成発生ほ場率7.6%、平成発生密度0.1頭/10株）。

② フェロモントラップによる3月の誘殺数は4半旬現在、紀の川市22頭（平成15頭）、和歌山市20頭（平成22頭）と平成並であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 同系統の薬剤は連用しないこと。

## ＜野菜全般＞

### 1. 灰色かび病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 3月2半旬現在、紀中地域の施設栽培キュウリでの発生ほ場率は10%（平成0%）とやや高かった。

② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設内では湿度低下を図り、過灌水や滞水しないように注意する。発病部位を除去し、発病初期から薬剤防除を行う。また、同一系統の薬剤の連用を避け、耐性菌回避を考慮した薬剤のローテーションに努める（「防除指針」参照）。

### 2. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀北地域のイチゴでは3月4半旬現在、発生を認めていない（平成発生ほ場率9.2%、平成発生密度0.1頭/10花）。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 気温の上昇とともに4月上旬頃から密度が増加するので、発生初期に防除

する。多発ほ場では追加防除を行う。

## Ⅲ．果 樹

### <カンキツ>

#### 1. かいよう病

(1) 予報内容 春葉初発日 5月4～5半旬(平年並)  
春葉発病量 並

#### (2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場(無防除)における春葉の越冬病斑量は平年より少なかったが、夏秋梢に越冬病斑がみられた。
- ② 昨年は台風による影響が少なく、巡回調査での発病果率は低かったが、春葉および夏秋梢の発病園率は平年並であった。
- ③ 4月の気象予報による。

#### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 罹病性品種や常発園では、罹病枝葉の剪除とともに防風垣の整備に努める。
- ② 発芽前の防除ができなかった園では、新梢伸長期に銅水和剤(炭酸カルシウム剤加用)を散布する。
- ③ 前年多発園では、防除の徹底に努める。

#### 2. そうか病

(1) 予報内容 発生時期 平年並  
発生量 やや少

#### (2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場における越冬病斑量は平年並で、近年の巡回調査における発病は、一部の常発園等を除くと平年より少なく、一般防除園の越冬病斑量は平年より少ないと考えられる。
- ② 4月の気象予報による。

#### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 常発園および前年多発園では、越冬病斑の除去、発芽直後の薬剤防除に努める。

#### 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 4月の発生量 並

#### (2) 予報の根拠

- ① 県予察ほ場(無防除)における3月中旬の発生は平年並で、慣行防除園における発生は認められなかった。
- ② 4月の気象予報による。

#### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミカンハダニは殺ダニ剤に対する薬剤抵抗性の発達が問題となるため、冬期のマシン油乳剤による防除を徹底するとともに、夏期にも1回、マシン油乳剤による防除を組み込むことが望ましい。冬期に散布出来ない場合は3月の発芽前に97%・98%マシン油乳剤の散布を行う。

### <カ キ>

#### 1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

#### (2) 予報の根拠

- ① 前年10月の「富有」の発病葉率は39.9%(平年33.0%)と平年並であった。

#### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。前年多発した園では、この時期の防除を徹底する。
- ② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。
- ③ 菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏をねらってていねいに散布することが大切である。

## <ウ メ>

### 1. かいよう病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

- ① 前年6月上旬の巡回調査における発生は一部の常発園中心で、発生面積、発病果率ともほぼ平年並であった。秋期の気象条件と併せて潜伏越冬病斑量は少ないと考えられる。
- ② うめ研究所内無防除樹での潜伏越冬病斑は3月19日現在認められない。
- ③ 4月の気象予報による。

### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 強風雨により感染が助長されるため、常発園では防風施設の整備等の防風対策を励行する。
- ② 生育期の薬剤防除は、発芽期からほぼ10日おきに数回抗生物質剤を散布する。強風雨直前の散布で、より高い効果が得られる。

## <果樹全般>

### 1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並～やや多
- (2) 予報の根拠

- ① チャバネアオカメムシ成虫の1箇所あたりの越冬虫数は、県北部では0.2頭（平年0.2頭）で、平年並であった。県南部（有田以南）では0.9頭（平年0.3頭）で、平年に比べやや多かった。
- ② 県南部における越冬箇所率は39%（平年22%）で、やや多かった。

### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ウメ・モモなどでは収穫前の越冬成虫の多飛来に注意する。
- ② カメムシ類の最新の発生状況は、県農林水産総合技術センターのホームページの技術情報の果樹カメムシ類発生予察を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境保全室ホームページ <農作物病虫害防除所コーナー>

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/071400/boujyosyo-yosatsujyohou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所(TEL 0736-64-2300)までお願いします。